

## 地名を歩く

## 六十二 東町



日御碕宮前の手洗鉢と地神と常夜燈



南から見た現在の東町

「東町」は今の高梁市東町で、はなみずき通りを隔てて、北には鍛冶町、そして南には栄町、東には松原通や間之町が、西には南町があります。現在の東町と南の栄町の境から町筋の幅が違っていて、道幅の広い栄町は城下町時代の東町より以後に町筋ができた近代の町であることが分かります。

東町の歴史は江戸時代にさかのぼり、松山藩主水谷二代勝宗が寛文一〇年(一六七〇)に南町を取り立て、その後貞享二年(一六八五)にこの東町を町人の町として取り立てて成立した町でした。この頃の松山城下は活気があふれ、高瀬舟による河川交通も盛んになり、河岸が発達し問屋などが栄えて、松山城下町は五・六万石の大名の城下町として完成した時代でした。

「松山御城主歴代記」(市図書館)の勝宗の条に「御城下町数二十二丁。…南町寛文十年出来、南町是は水谷様御代より御除地に仰せ付けられ候。貞享三年東町出来。」(差出帳)には貞享二年とある)と書かれていて、松山城下町で、南町までの「五町の町」には地子(領主から賦課される税)免除という恩典があったが、六番目に出来た東町は地子免除

の恩典がなく、その上、城下町の各種の催しにも参加していませんでした。また延享元年(一七四四)の「松山六力町差出帳」(市図書館)によると東町は鍛冶町の南の牢屋小路(現はなみずき通り)を隔てて続き、町の長さ一丁三六間余りで幅三間(約五丁四〇)のもっとも短い町筋でした。東町の南端には東町辻番所がありました。「増補版高梁市史」によると、当時本町一七一世帯、下町二六一世帯、南町二七八世帯、新町一五六世帯、鍛冶町二三〇世帯、東町は六三世帯が軒を連ねた町だったのです。『水谷史』御家内之記』によると町の長さ一丁二十間、家数三十八軒と書かれ、また延享元年の「差出帳」に人数一八八、うち男九二・女九六、東に通る小路(横丁)が一つありと書いていて、現在もこの路地は残っています。東町町年寄は原村庄屋が兼ね、役付五俵で十郎兵衛の名が見えていて、払米、大豆、鯛口銭などの取り立てをしていた(増補版高梁市史)。

東町には銀札発行の札受をしたり質屋、酒造などを営んでいた「下の大坂屋」平松益造の家が西の弓之丁から南町を経て東町に至る大きな屋敷をもつてい

ました。屋敷の中庭には位牌堂のある淨真寺まであった(昔夢一班)といわれています。

畝数五反六畝七歩のうち三反三畝一歩は原西村(松山西村)、二反二畝一六歩は原東村分となっていた(松山御城主歴代記)ようでの南や東側には当時畑も多かったのです。

今では近世城下町時代の家並は残っていませんが、町の南の端の栄町との境付近には出雲から勧請した「夜を守る神」の日御碕神社が祀られ、境内には以前松山村への農道にあった文久二年(一八六二)銘の地神塔や、天明三年(一七八三)癸卯の文字のある石燈籠、そして文政十年(一八二七)丁亥年八月吉日の大きな常夜燈が残っていて往時をしのばせてくれています。昭和の頃まではこの町に保健所もありました。

「東町」という町名は江戸時代の松山城下町六町の一つで、南町に続いて取り立てられ、南町の東側に位置したので付けられた町名なのです。東方を示す地名で全国の城下町にはこの町名は沢山見られます。成羽の城下町(陣屋町)にも「東町」があります。

(文・松前俊洋さん)



～歯科衛生士を目指す皆さんへ～

## あなたもスーパーハイジニストを目指ませんか!

順正短期大学保健科歯科衛生専攻は、来年4月から、3年制の吉備国際大学短期大学部保健科デンタルビューティー専攻として生まれ変わります。

本専攻には40年に及ぶ歴史があり、歯科衛生士養成のための充実した講義と実習を行っています。また、岡山大学病院での4カ月間の実習により高度な歯科医療を体験することができます。さらに、この度の3年制移行に伴い、アロマセラピー、口腔筋機能療法(MFT)などの新しいカリキュラムも用意しました。

歯科衛生士として十分な知識と技術を有するとともに、患者さんに「癒し」を与えることのできる“スーパーハイジニスト”の養成を目指しています。

※市内居住の受験生(保護者だけでも可)は、高梁市奨学金制度による入学金の助成が受けられます。

### デンタルビューティー専攻の特色

- 全国でも数少ない、短期大学士を取得できる歯科衛生士養成校です。
- 総合大学の恵まれた設備の中で学習することができます。
- 3年次に岡山大学病院で、最先端の歯科医療を4カ月わたって学ぶことができます。
- 審美歯科(ホワイトニング)や口腔筋機能療法、アロマセラピーなど、特色あるカリキュラムがあります。

■問い合わせ 高梁学園入試広報室(フリーダイヤル 0120-25-9944)

編集後記

先日、冬絵ぶたイルミネーション点灯式の取材に行きました。会場には、子どもに人気のデイズニーキャラクターをモチーフにしたもの、今年の干支のウシが来年のトラにバトナタッチしているものなど、趣向を凝らした冬絵ぶたがずらり。夏の絵ぶたの迫力とはまた違った、ほのぼのとした温かみがあります。

また、この時季の恒例となっている高梁キリスト教会堂前の紺屋川のイルミネーションが始まりました。あちこちで、色とりどりのイルミネーションで飾られたお宅も見かける

ようになりました。仕事帰りに、そうした明かりを目にするとホッとするのですが、もう1年が終わってしまおうという焦りも感じ…。年々、日にちが経つのが早くなっているような気がします。年齢とともに日常の出来事に新鮮味を感じなくなるから、という説を聞いたこともありますが、どうでしょうか。

初めて取材したときの新鮮な気持ちを出して、取材に出かけていきたいと思いません。来年も「広報たかはし」をよろしくお願います。(YM)

## まちの伝言板

### 弥高山 日の出祭



川上町観光協会  
会長 林 建樹さん(70)

川上町の弥高山で初日の出を見ませんか。  
恒例となっている「日の出祭」が行われます。360度見渡せる弥高山の頂上からのご来光を皆さんに拝んでもらおうと、旧川上町が弥高山公園整備後すぐに始めたもので、現在は川上町観光協会が主催しています。

「おかげさまで、毎年多くの方がご来光の参拝に訪れます。地元元仁賀青年団による甘酒・コーヒーマンゼひもあるのですが、みなさんぜひお越しください」と林会長。  
瀬戸内側が晴れると、きれいで幻想的な初日の出を見ることが出来ます。2010年の始まりを弥高山で迎えてみませんか。

詳細は次のとおり。  
▽日時：平成22年1月1日(金) 日の出は午前6時50分ごろ(甘酒などの振る舞いは午前6時ごろから)  
■問い合わせ 川上町観光協会事務局(川上地域局地域振興課内) ☎2201